

全国環境研協議会加盟機関が実施している生物学的調査研究（令和２年度）

全国環境研協議会環境生物部会では、生物学的調査研究に関する情報交換を進め、共同研究への発展等に資することを目的として、加盟機関に生物学的調査研究の実施状況についてアンケート調査を実施しています。下表は、令和元年度に実施している調査研究課題名及び概要をまとめたものです。

実施機関名	地方独立行政法人北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>国環研共同研究Ⅱ型 「森林生態系における生物・環境モニタリング手法の活用」</p> <p>国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、環境系モニタリングとして オゾン等の大気汚染物質共通計測(パッシブサンプラー法等)を行う。 北海道立総合研究機構は、摩周湖および知床のパッシブサンプラーの分析および報告を担当している。</p>
実施機関名	岩手県環境保健研究センター
調査研究課題名 及び概要	<p>重要な絶滅危惧植物を存続させるための技術開発に関する研究</p> <p>「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」や「岩手県希少野生動植物の保護に関する条例」の指定種から、自生個体を存続させるための手法と苗生産を行うための技術の開発を行う。 [URL]https://www.pref.iwate.jp/kanhoken/kankyuu/1015879.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>イヌワシの生息数維持に向けた保全生態学的研究</p> <p>イヌワシの分布、繁殖状況、生息環境、個体群構造等に関わるデータを収集・解析し、生息数維持に向けた科学的知見を整備する。 [URL]http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/shizen/inuwashi/top.htm</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>ツキノワグマの個体群動態と将来予測手法の開発ならびに人里への出没メカニズムの解明</p> <p>モデル地域でヘア・トラップ調査を実施して個体群動態と将来予測を行い、捕獲上限数の算定方法を開発する。また GPS テレメトリーによる行動圏の把握をもとに人里への出没メカニズムを解明する。 [URL]http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/shizen/mammal/work/mammal-work.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>岩手県におけるニホンジカの個体数推定法に関する研究</p> <p>岩手県内のニホンジカの生息数を推定するため、各事業のデータを用い、階層ベイズ法による岩手県独自の個体数推定モデルを構築する。 [URL] http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/shizen/mammal/work/mammal-work.html</p>

(続き) 岩手県環境保健研究センター

調査研究課題名 および概要	ウイルス媒介性節足動物（ヒトスジシマカ）の生息に関する研究 ウイルス性疾患を媒介する感染症対策上重要な節足動物であり、地球温暖化の身近な指標生物であるヒトスジシマカについて、生息北限地域における生息状況の調査及び生息条件の解析を行うとともに、自治体が行うヒトスジシマカの調査に協力する。 [URL] https://www.pref.iwate.jp/kanhoken/kankyuu/1015878.html
実施機関名	宮城県保健環境センター
調査研究課題名 及び概要	共同研究Ⅱ型「生物応答を用いた各種水環境調査方法の比較検討」 国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、生物試験方法（WET手法等）に関する情報収集・検討を行う。
実施機関名	山形県環境科学研究センター
調査研究課題名 及び概要	自然生態系保全モニタリング調査 森林を取り巻く自然環境の異変等を早期に察知するため、山岳地域や里山において、動植物の生息・生育状況等自然環境の調査を行っている。
調査研究課題名 及び概要	ブナ・ナラ豊凶調査 森林の更新や野生動物の生息動向に大きな影響を与えるブナ・ナラの豊凶調査を行っている。 [URL] http://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/053001/
調査研究課題名 及び概要	ツキノワグマ生息状況調査 現在、ツキノワグマによる農作物被害や人身事故の防止に向け、抜本的な対策が求められている。被害対策を行ううえで生息数の把握が極めて重要であることからカメラトラップを用いた生息状況調査を行っている。
調査研究課題名 及び概要	酸性雨モニタリング（陸水）調査（環境省委託事業） 環境省の委託により酸性雨の中長期的影響を把握するため、今神御池（山形県戸沢村）における水質調査及びプランクトン調査を継続的に行っている。
実施機関名	福島県環境創造センター
調査研究課題名 及び概要	野生動物に対する原子力発電所事故の影響に関する研究 野生動物の行動調査、DNA分析による食性調査や野生動物の筋肉・胃内容物の放射性核種濃度調査を実施し、一部の野生動物の放射性セシウム濃度が高い要因を調べる。 [URL] https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/318787.pdf

実施機関名	新潟県保健環境科学研究所
調査研究課題名 及び概要	クマの出没状況の変化に関する研究 <ul style="list-style-type: none"> クマの出没情報を、地域ごとに取りまとめ、経年変化などを調べる。 気象状況(気温、降雪など)とクマの出没情報数との相関の有無を調べる。 クマの出没頻度が高いあるいは人身被害が多い地域の出没情報から、クマの誘引情報(カキ、クリなど)の抽出や地域の特徴(耕作放棄地、人口減少など)を把握し、クマの出没の予測につながる情報を探す。あわせてどこにクマ誘引要因があるかを示したクマ危険マップを作成する。
実施機関名	新潟市衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	新潟市河川における水生底生生物実態調査 「生物等による水環境評価マニュアル」(環境省)のスコア法に基づき算出したA S P T値について、河川の水質の重要な指標であるB O D等との関連を経年的に見るため、長期の水質状況が把握できる公共用水域の常時監視地点を考慮した地点等で調査を実施している。 [URL] http://www.city.niigata.lg.jp/iryo/shoku/syokuei/shokueishisetsu/eisei_ken/eiken_kouhousi.html
実施機関名	栃木県保健環境センター
調査研究課題名 及び概要	湯ノ湖沈水植物の植生調査 奥日光水域の水環境保全対策の一環として湯ノ湖に繁茂するコカナダモの刈取りを実施するに当たり、コカナダモのほか、ヒメフラスコモなど絶滅危惧種を含む沈水植物の植生及び生育状況を調査するもの。 [URL] http://www.pref.tochigi.lg.jp/e60/thecreport/thecreport.html
調査研究課題名 及び概要	水生生物調査 県内主要河川について、水生生物の生育状況を調査することにより、生物学的観点から水質を継続的に監視する。 [URL] http://www.pref.tochigi.lg.jp/d03/eco/kankyoh/hozen/jyoujikansikekka.html
実施機関名	群馬県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	環境DNAを利用した生物多様性に関する調査 現在、水生生物調査の確認手段には、欠点がある。しかしながら、その欠点を補完する新たな手法として、水中に含まれるDNAから存在する生物種を特定するが提案されてきている。 この新たな手法では、魚類の特定が可能となっており、まず、モニタリング方法としての有用性を確認する。その後、県内河川において、生息している魚類の調査を行い、その結果を河川水質データ等と併せてマッピングしていく予定である。

(続き) 群馬県衛生環境研究所

調査研究課題名 及び概要	尾瀬沼水質調査およびコカナダモ生育状況観察結果 昭和 61 年から平成 2 年にかけて実施された「尾瀬沼におけるコカナダモの試験駆除」の後、群馬県では毎年コカナダモの繁殖状況を観察している。 当所では、年に 3 回引き上げによるコカナダモの観察を行っており、採取地点ごとのコカナダモの量や長さから繁殖状況の変動について考察する。
実施機関名	埼玉県環境科学国際センター
調査研究課題名 及び概要	県民参加を主体とした光化学オキシダント（オゾン）によるアサガオ被害調査 毎年 7 月に県民参加により、埼玉県内で生じる光化学オキシダントによるアサガオ被害の状況を調べる。具体的には県民の協力により、県内約 60 地点程度でアサガオの葉に発現するオゾン被害を調査するとともに、その被害状況を地図化し、ホームページ等で公表する。 [URL] https://www.pref.saitama.lg.jp/cess/torikumi/asagaotyousa/index.html
調査研究課題名 及び概要	水稲や近郊野菜の成長や収量に対するオゾンリスク評価 我が国の水稲や近郊野菜などの成長や収量に対するオゾンの影響の評価
調査研究課題名 及び概要	埼玉県における特定外来生物”クビアカツヤカミキリ”の生息状況調査 埼玉県における特定外来生物”クビアカツヤカミキリ”の生息状況を、県民参加による調査で把握し、結果をホームページ等で公表する。 [URL] https://www.pref.saitama.lg.jp/cess/center/kubiaka.html
調査研究課題名 及び概要	外来水生植物が水域・陸域の生物群集及び食物網に及ぼす影響の解明 外来水生植物が繁茂することにより生じる水生動物や陸生無脊椎動物群集への影響を解明する。また、県内外の既存の分布データを活用してハビタットモデルを構築し、外来水生植物のポテンシャルマップを作成する。
調査研究課題名 及び概要	水田地帯における水生動植物の生息状況に関する基礎的調査研究 水田に生息する水生動植物の生息状況の調査を行う。埼玉県北部では、同一地域内でも稲の栽培品種や農法によって田植え時期に 1 ヶ月程度の差が見られることから、田植え時期と生物群集の関係について明らかにする。
調査研究課題名 及び概要	共同研究Ⅱ型「生物応答を用いた各種水環境調査方法の比較検討」 国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、生物試験方法（WET手法等）に関する情報収集・検討を行う。 本県は、生物試験に用いる河川水の採水を担当した。
調査研究課題名 及び概要	DNA を利用した魚類等調査法の開発 環境 DNA メタバーコーディングについての研究。水環境の健全性評価や生活排水対策の効果検証への魚類相の適用に向けて、環境 DNA 分析を活用した新しい魚類調査手法を検討する。

実施機関名	公益財団法人東京都環境公社東京都環境科学研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>希少海草コアマモの保全に向けた生育場環境の実態調査</p> <p>多摩川河口域に成立しているコアマモ場は東京都内で唯一、自生が確認されている藻場である。本種は環境省版RLには記載はないものの、神奈川県では絶滅危惧Ⅰ類、千葉県では絶滅危惧Ⅱ類に分類されており、東京湾では保全すべき希少種である。本研究では、多摩川河口のコアマモ場保全に向けた基礎的な知見の集積を目的とする。コアマモ場の水質、微地形、藻場内の有機物形態の特性等を湾内の他のコアマモ場と比較しながら整理していく。加えて、多摩川河口のコアマモは遺伝的に特異な性質をもつ可能性があるため、その検証をしつつ、保全の方向性を示すことを最終的な目標とする。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>多摩川の上・中・下流域における外来種ミズワタ珪藻の生息環境に関する実態調査</p> <p>近年、日本の各地で生息確認がされている外来種珪藻であるミズワタクチビルケイソウについて、2019年度に都内の現状把握のため、代表河川のひとつである多摩川水系上流域を中心に分布調査を実施した。その結果、当該種の多摩川における生息状況は、上流・中流・下流域で違いがみられた。このように繁茂状況が上流・中流・下流域で異なる原因としては、水温などの水質や照度といった項目が可能性のひとつとして考えられる。今後、中下流域への生息分布拡大の可能性の有無を考えた場合に、当該種の生息環境についての知見を得ることは、必要な情報であると考えられる。</p> <p>そこで、本調査では、当該種の繁茂状況を上・中・下流域でモニタリングすることに加え、水温などを調査し、当該種の生息環境との関連性を把握することで外来種であるミズワタクチビルケイソウが今後、中下流域へ生息分布を拡大する可能性について知見の集積を目的とする。</p>
実施機関名	神奈川県環境科学センター
調査研究課題名 及び概要	<p>環境DNAを用いた県内生物多様性調査手法の確立</p> <p>生物から放出された細胞片等に含まれるDNAを分析することにより生物の存在を把握する手法である環境DNA調査により、県内河川等における魚類相の多様性を評価するとともに希少種や外来種の生息状況の情報を保護や駆除に活用するため、神奈川県内水面試験場と共同で取り組む。</p> <p>[URL] http://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/cyousakenkyu/kadai/kadai-gaiyou/r02kadai-gaiyou.html#r02-3</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>ミトコンドリアDNA領域に着目した環境DNAによる底生生物相把握手法の開発</p> <p>生物から放出された細胞片等に含まれるDNAを分析することにより生物の存在を把握する手法である環境DNA調査について、河川に生息する水生昆虫等の底生動物を網羅的に調査する手法を開発するため、県内に生息する底生動物のミトコンドリアDNAデータベースの整備を民間事業者と共同で取り組む。</p> <p>[URL] http://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/cyousakenkyu/kadai/kadai-gaiyou/r02kadai-gaiyou.html#r02-3</p>

(続き) 神奈川県環境科学センター

<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>環境 DNA を用いた丹沢山地におけるサンショウウオの分布調査手法の開発</p> <p>環境 DNA を用いたサンショウウオ類調査手法を確立し、その手法を用いて丹沢山地の広域的調査を実施するとともに、その生息分布状況から生息適地モデル (MAXENT 等) により解析を行う。</p> <p>[URL] http://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/cyousakenkyu/kadai/kadai-gaiyou/r02kadai-gaiyou.html#r02-3</p>
<p>実施機関名</p>	<p>山梨県衛生環境研究所</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>イネ科及びブタクサ花粉飛散状況等に関する研究</p> <p>これまで当所では春季のスギ・ヒノキ花粉飛散状況の観測を行ってきた。他、花粉症の原因とされるイネ科、ブタクサについても花粉飛散状況を観測し、周辺の植生や気象条件との関連性を解析する。</p> <p>これら研究成果等は、「やまなし花粉症ポータルサイト」として庁内ホームページ内に開設 (R1 年度)、情報提供した。</p> <p>R2 年度には本ポータルサイトの冊子版「やまなし花粉症ガイド」を 1 万 5 千部作成、関係機関等に配布を行い、花粉症の有病率が高いとされる県民等への効果的な情報発信を図る。</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>下水処理場流入水および放流水から検出された腸管系病原菌の解析</p> <p>前研究により、下水中の腸管系病原体の検出状況が明らかになったが、ヒト由来株との関連性や環境への排出状況は十分解明されていない。本研究では、下水処理場における流入由来株、放流水由来株とヒト由来株等の関連性の解析を行うことで腸管系病原細菌の感染流行状況へのモニタリングの有効性を検証する。</p>
<p>実施機関名</p>	<p>長野県環境保全研究所</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>野尻湖の水草に関する調査 (予備調査)</p> <p>水草の定期モニタリング地点において、水草の復元状況を把握する。確認できた水草は、繁茂密度、範囲などを定量的に評価して、野尻湖水質保全計画の基礎資料とする。</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>侵略的外来種への新たな対策技術に関する調査研究</p> <p>生物多様性保全への重大な脅威である侵略的外来種の侵入防止、拡散防止、被害の低減を効果的に推進する技術を試験開発する。実施項目: (1) 侵入防止: 重要地域への外来植物の侵入実態調査。(2) 早期発見・駆除: 環境DNAやセンサーカメラを組み合わせた発見同定技術の導入、および市町村～広域での早期対応に関する情報収集と検討。(3) 県民との協働: 対策普及事業と連携し長野県版外来種対策ハンドブックやアプリを活用して、県民の協力を受けながら各地域の重要項目を検討。</p> <p>[URL] https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/jigyo/gyomu/shizen.html</p>

(続き) 長野県環境保全研究所

調査研究課題名 及び概要	高山生態系モニタリングに関する調査研究 長野県の特徴的な自然環境である高山生態系の中長期的（気候変動）、短期的（ニホンジカによる摂食圧の増加等）な環境変動に対する応答を把握することを目的とする。特に、高山植物の種多様性が全国的に高い八ヶ岳において、八ヶ岳固有の高山植物の存続の危険性がシカ摂食により高まっていることから、緊急的な課題としてそれら高山植物の現状把握に注力する。実施項目：(1)高山帯に生息する希少動植物に関する調査研究、(2)シカの侵入など動物相・植生変化の定点調査、(3)気象環境（気温・降水量等）・残雪調査、(4)登山者参加型の山岳地環境情報（ライチョウ・ニホンジカ等）の収集。 [URL] https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/jigyo/gyomu/shizen.html
調査研究課題名 及び概要	野生鳥獣の保護管理にむけた生態及び被害対策に関する調査研究 野生鳥獣と地域社会の共存に向けて、県の「鳥獣保護管理事業計画」、鳥獣保護法に基づく「第2種特定鳥獣管理計画」、および県「野生鳥獣被害対策本部」業務に必要となる科学的情報を、対象鳥獣の捕獲試料分析と、対象鳥獣の生息および被害実態の把握（野外調査）により提供し、対策の提案、現地での対策技術の普及啓発を促進することを目的とする。実施項目：(1)ツキノワグマの個体群動態及び人里への出没傾向の把握、(2)ニホンジカ分布拡大前線での生息状況及び県内の個体数変動把握、(3)カモシカの個体群動態把握、(4)魚食性鳥類の個体数の増減傾向の把握、(5)獣害防護柵の効果及び管理体制調査、(6)鳥獣被害軽減にむけた対策の提案や技術の普及。 [URL] https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/jigyo/gyomu/shizen.html
調査研究課題名 及び概要	陸水域における魚類の保全と管理に関する研究 千曲川中流域の生物生産を良好に維持しながら河川環境を管理するため、外来魚の分布や個体数動向および影響の実態を把握し、在来魚の保全と外来魚管理のための基礎資料を得ることを目的とする。実施項目：(1)コクチバスの定期的駆除による在来魚の回復状況のモニタリング、(2)コクチバスの繁殖生態に関する調査、(3)コクチバスの遺伝構造に関する調査。 [URL] https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/jigyo/gyomu/shizen.html
調査研究課題名 及び概要	長野県におけるカラマツ林の炭素収支の気候変動応答と森林管理による緩和策の評価 全国3位の森林面積を有する長野県では人工林の半分以上をカラマツが占めており、冷涼な気候を好むカラマツは気候変動に対する脆弱性が指摘されている。そこで、本研究は長野県のカラマツ人工林を対象に、地域気候モデルによる高解像度の近未来気候予測値と陸域生態系モデルを利用して、森林生態系の炭素収支の将来予測を行い、間伐や樹種転換等の森林管理が将来の炭素収支に与える効果を評価することを目的とする。 [URL] https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/jigyo/gyomu/shizen.html

(続き) 長野県環境保全研究所

<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>信州の生物多様性の保全および自然資源の価値共有手法の開発</p> <p>長野県の自然環境を特色づける山岳高原の生物多様性を保全し、その地域資源としての価値を社会的に共有し、持続可能な利用に役立つ情報を発信することを目的とする。とくにSDGs、観光、文化、教育など地域づくりに関連した領域で活用可能な知識・情報を開発し、発信する。実施項目：(1)生物多様性ながの県戦略改定への参画、(2)生物多様性ホットスポットの現況把握、保全策検討及び情報発信、(3)生物多様性を基盤とする文化的資源の実態把握とその再生・活用策の検討、(4)希少種および重要生息地の実態調査、保全策検討、標本整備。</p> <p>[URL] https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/jigyo/gyomu/shizen.html</p>
<p>実施機関名</p>	<p>静岡県環境衛生科学研究所</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>共同研究Ⅱ型 「生物応答を用いた各種水環境調査方法の比較検討」</p> <p>国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、生物試験方法(WET手法等)に関する情報収集・検討を行う。</p> <p>本県は、供試魚としてゼブラフィッシュ・ミジンコを使った生物試験を行い、他の機関で実施した生物試験等の結果との比較評価を行う。また、より容易な手法にするための検討を試みる。</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>高山帯希少種の生息環境把握</p> <p>県内の高標高地点3箇所気象観測装置を設置し、観測データと周辺の生態系観測結果を比較し、生育・生息適地を検討</p>
<p>実施機関名</p>	<p>さいたま市健康科学研究センター</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>アズマモグラの生態に関する研究</p> <p>モグラは地下にトンネルを掘るという独特の生活様式から、田畑や堤防を損傷する害獣として認識される一方で、地中生活に適応した体のつくりや行動、雌は正常状態で卵精巣を生殖腺として持つという特異な生態をもつ。</p> <p>さいたま市内で捕獲されたアズマモグラに関して組織・形態学的、内分泌学的手法を用いて検索を行い、その繁殖生理や行動に関わる器官の構造・機能を調べる。</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>生物応答手法を用いたさいたま市内河川水水質調査</p> <p>国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、生物試験方法(WET手法等)に関する情報収集・検討を行う。</p>

実施機関名	横浜市環境科学研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>水域生物多様性に関する調査業務（海域）委託</p> <p>横浜市内水域生物の生息状況を把握し、生物指標による水質評価を行うことを目的として、2年おきに河川域調査と海域調査を実施している。令和2年度は秋季、冬季に市内の河口・海岸、内湾の10地点で魚類、海岸動物、海草・海藻、プランクトンの調査を行い、令和3年度の春季、夏季調査と併せて第15回目の海域調査結果として取りまとめる。</p> <p>[URL] http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/data/forest/kasen.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>横浜市内の池における魚類、甲殻類（十脚目）相調査</p> <p>横浜市内の池において魚類、甲殻類（十脚目）相調査を実施し、現在の生物生息状況を把握するとともに、過去に実施した調査結果との比較を行う。令和2年度は6地点で調査を実施する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>陸域生物多様性に関する調査業務委託</p> <p>横浜市内陸域生物の生息状況を把握し、環境変化や地域特性による生物相の違いについて基礎資料を得ることを目的として、4年間で12地点を一巡できるよう調査している。令和2年度は氷取沢市民の森・久良岐公園・横浜公園・山下公園において、植物、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、昆虫類の調査を行う。</p> <p>[URL] https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/naiyou/tayosei/forest.html</p>
実施機関名	川崎市環境総合研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>河川等の水質及び水生生物の生息・生育状況モニタリング調査</p> <p>川崎市水環境保全計画に基づき、市内河川、海域、親水施設等の水質や水生生物の生息状況を継続的に調査している。</p> <p>[URL] http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-8-17-0-0-0-0-0-0.html （過去の調査結果を研究所ホームページ内の年報のページに掲載）</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>水環境における生物多様性に関する調査研究</p> <p>市内に生息する生物の種類を、顕微鏡観察およびDNA配列の解析により調査し、市内調査地点における生物多様性の状況を把握している。</p> <p>[URL] http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-8-17-0-0-0-0-0-0.html （過去の調査結果を研究所ホームページ内の年報のページに掲載）</p>
実施機関名	愛知県環境調査センター
調査研究課題名 及び概要	<p>愛知県鳥類生息調査</p> <p>県内で鳥類の定点調査を実施</p> <p>[URL] http://www.biodic.go.jp/relatedinst/katsudo.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>ガンカモ類生息調査</p> <p>環境省のガンカモ調査を実施</p> <p>[URL] http://www.biodic.go.jp/relatedinst/katsudo.html</p>

(続き) 愛知県環境調査センター

調査研究課題名 及び概要	愛知県絶滅危惧種等フォローアップ調査 県内の絶滅危惧種の分布調査を行いレッドデータブックを作成する。[URL] http://www.biodic.go.jp/relatedinst/katsudo.html
調査研究課題名 及び概要	愛知県外来種調査 県内の外来種の分布調査を行いブルーデータブックを作成する。 [URL] http://www.biodic.go.jp/relatedinst/katsudo.html
調査研究課題名 及び概要	海上の森自然環境保全地域における希少種の保全についての研究 海上の森自然環境保全地域でシデコブシの保全について調査する [URL] http://www.biodic.go.jp/relatedinst/katsudo.html
実施機関名	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
調査研究課題名 及び概要	琵琶湖・瀬田川プランクトン等モニタリングとプランクトン予測手法の検討 1. 琵琶湖・瀬田川プランクトン等モニタリング調査 ・植物プランクトン、動物プランクトン、ピコプランクトン (北湖4地点(6検体), 南湖1地点で年24回) ・植物プランクトン、動物プランクトン、ピコプランクトン(1地点で年52回、毎週HPで結果公表) ⇒プランクトンのモニタリング結果を理化学的な水質調査結果と併せて解析・評価し、県環境審議会等の場で報告する。 2. 瀬田川におけるプランクトン予測手法の検討 ・これまでの調査結果を整理し、プランクトン予測手法を検討する。 [URL] 瀬田川プランクトン調査結果 https://www.lberi.jp/setagawa_plankton
調査研究課題名 及び概要	緊急時における化学物質調査手法の検討 サブテーマ 2: 魚類を用いた急性毒性試験による緊急時調査手法の検討 ・国立環境研究所・地方環境研究所とのⅡ型共同研究「生物応答を用いた各種水環境調査方法の比較検討」に参画し、急性毒性試験に関する情報収集や試験精度の確認を行う。 ・環境基準項目について、魚種や魚の成長度合い等による急性毒性試験結果の差異を収集する。 ・既に作成したゼブラフィッシュによる急性毒性試験マニュアル試案を検証し、実用的な「急性毒性試験対応マニュアル」を作成する。
調査研究課題名 及び概要	琵琶湖沿岸域における湖底環境・生物再生に向けた研究 沿岸域における生態系改善対策の一つとして、浅い砂地の修復・再生に向けて、事業の設計に必要な知見を得るため、二枚貝等を評価指標とした生息・餌環境を形成する要因を評価するとともに、養浜等の事業における底質や生物への影響を評価することにより、場の特性に合わせた、二枚貝等がにぎわう沿岸環境を修復・保全する設計手法を提示します。

実施機関名	地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>野生鳥獣のモニタリング調査</p> <p>農林業被害の軽減・人と野生鳥獣の共存を図るため、大阪府では鳥獣保護管理法に基づく大阪府鳥獣保護管理事業計画やシカ・イノシシの第二種鳥獣管理計画を策定している。この管理これらの計画の策定や進捗状況の点検のためには、地域におけるシカ・イノシシ等の生息状況や被害状況などの定期的なモニタリングが必須である。そこで、大阪府鳥獣保護管理事業計画およびシカ・イノシシ第二種鳥獣管理計画の進捗状況を点検見直しするための基礎資料を提供する。</p> <p>[URL]http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00057622/h26_09seisoku.pdf</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>アライグマのモニタリング調査</p> <p>本来日本には生息しない外来種であるアライグマは、近年生息域を広げて農業被害が拡大しており、大阪府では外来生物法に基づく防除実施計画を策定して対策を実施している。計画の策定や進捗状況の点検のためには、アライグマの生息状況や被害状況など定期的なモニタリングが必須である。そこで、大阪府アライグマ防除実施計画の進捗状況を点検見直しするための基礎資料を提供する。</p> <p>[URL]http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00057622/h26_09seisoku.pdf</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>農作物を加害するヌートリアの生息状況把握とモニタリング</p> <p>外来種ヌートリアによる被害は、大阪府内でも中部地域で近年被害報告が多発するなど拡大しつつある。農作物被害軽減のためには、被害発生初期段階においてヌートリアの生息状況を適切に把握するとともに、当該市町村において外来生物法に基づく防除実施計画を策定し、モニタリングを継続しながら科学的な防除体系を確立していくことが必要である。そこで、大阪府による総合的な助言指導や市町村による防除実施計画策定のための基礎資料を提供する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>イタセンパラ保護定着調査</p> <p>国の天然記念物の淡水魚イタセンパラは、河川改修によるワンドの消失、河川の攪乱の減少、外来魚の増加などにより個体数が著しく減少し、平成17年を最後に生息確認が途絶えた。そこで、当研究所では、国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所とともに、本種を当所の保存池で飼育継代するとともに、淀川ワンド群の生物多様性復元の一助とするため、イタセンパラ放流ワンドでの本種を含めた在来魚の生息・繁殖状況を明らかにする。また、外来水生生物の実態を把握し、駆除技術を開発するとともに、本種を含めた在来魚種に感染する恐れのある魚病検査を実施する。</p> <p>[URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyogijutsu/seika/hogo/itasen/saidounyu.html http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/_files/00057783/h26_07itasenpara.pdf</p>

(続き) 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所

調査研究課題名 及び概要	希少魚の保護増殖試験 都市化に伴う生息環境の悪化等により、府内では魚など多くの水生生物に生息数の著しい減少がみられるようになった。そこで、大阪府における保護上重要な野生生物（レッドデータブック）で絶滅危惧種に指定され、現在絶滅が危惧されているイタセンパラやニッポンバラタナゴなどについて、種の系統保存を図るとともに、その生息状況を把握する。 [URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/hogo/index.html
調査研究課題名 及び概要	淡水生物増殖試験 大阪府における保護上重要な野生生物（レッドデータブック）に記載されている希少水生生物を保護するための調査試験を行う。平成15年度から平成26年度にかけては水生植物ミズアオイ、平成27年度からは淡水二枚貝のイシガイ類の保全に係る研究に取り組んでいる。 [URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/mizukusa.html
調査研究課題名 及び概要	安威川ダム魚類等調査業務 令和4年の完成を目指してダム建設工事が進んでいる安威川において、アジメドジョウをはじめとした魚類、水生動物、付着藻類、植生を調査し、ダム建設を進める上で保全すべき環境要素や留意点を明らかにする。 [URL] http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/kankyo/gijutsu/seika/ai.html
調査研究課題名 及び概要	漁業権河川調査 大阪府内8河川に設定されている漁業権免許の更新時には、漁業法第11条に基づいた漁業計画の策定が必要となる。漁業計画策定に際しては、漁場の有効性等を検討する必要があることから、河川漁業権漁場の総合的な実態調査を実施する。調査地点の無機的环境、付着藻類、底生動物、魚類の調査を実施する。
調査研究課題名 及び概要	生物応答を利用した排水管理手法 生物応答を利用した排水管理手法であるWETについて、その方法や国内外の実施状況をまとめ、有効性と導入に向けた問題点を抽出する。
実施機関名	公益財団法人ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター
調査研究課題名 及び概要	環境研究総合推進費「国内における生活由来化学物質による環境リスク解明と処理技術の開発」 スズキや小魚などにおけるりん酸エステル系難燃剤やベンゾトリアゾール系紫外線吸収剤などの濃度実態について調査する。 [URL] https://www.erca.go.jp/suishinhi/seika/pdf/seika_4_r02/5-1954.pdf
調査研究課題名 及び概要	底質に生息する微生物の有機物分解による物質循環への寄与の解明 干潟底質に生息する微生物による有機物分解から遊離する無機性窒素及び無機性りんを定量的に把握する。また、干潟の現場の条件を鑑み、微生物による沿岸域への栄養塩供給の可能性を検討する。

実施機関名	奈良県景観・環境総合センター
調査研究課題名 及び概要	<p>生物応答を用いた各種水環境調査方法の比較検討（Ⅱ型共同研究への参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ⅱ型共同研究に参加し、地環研が採水したサンプル（河川水）を用いて生物影響試験を行い、結果の共有及び試験精度の向上を図る。 また、研究の過程で得られた知見・技術などを共有することで、試験法の改善案などを検討していく。 ・WET手法（ミジンコ繁殖試験法）により、県内河川及び県内事業所排水を用いて生物影響試験を行い、ニセネコゼミジンコへの影響を評価する。
実施機関名	和歌山県環境衛生研究センター
調査研究課題名 及び概要	<p>底生動物相を用いた河川環境の変遷調査</p> <p>県内の3河川について、底生動物相を調査し、水質評価を行うとともに、20年前に実施した第1次調査との比較により、底生動物相及び河川水質の変遷や長期的影響を調査する。</p> <p>また、得られた情報は環境学習にも活用する。</p>
実施機関名	名古屋市環境科学調査センター
調査研究課題名 及び概要	<p>遺伝子技術を用いた生物相調査についての研究</p> <p>環境DNA技術を用いた生物相調査を実施し、本市の生物相の把握に活用できるかを検討する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>海棲生物を用いた生物応答試験法の検討</p> <p>海水を含む排水や、汽水域の河川水の評価を行うため、試験に適応可能な海棲生物種の選定を行い、海棲生物を用いた生物応答試験法の確立を目指す。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>内部生産抑制を目的とした市内ため池における植物プランクトンの研究</p> <p>本研究では、ため池における内部生産（植物プランクトンの増殖による汚濁）に着目し、市内ため池の現状を把握した上で、内部生産を抑制し水質改善へつなげるための手法について検討する。</p>
実施機関名	大阪市立環境科学研究センター
調査研究課題名 及び概要	<p>公立小学校における生物多様性の評価とその普及に関する調査研究</p> <p>大阪市内の公立小学校において、児童とともに校内に生息する動植物を探索し、生物群集の季節変化を追跡することにより、生物多様性に関する理解を深める機会を与える。得られたデータに基づき、各生物種の分布の地域特性や周辺環境との関連性について、地理情報システム（GIS）を用いて解析を行なう。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>北港処分地における衛生動物のモニタリング調査</p> <p>大阪市北港処分地南地区において、ネズミ類、ハエ類、ユスリカ類の生息密度をモニタリングし、その防除方法を提案している。</p>

(続き) 大阪市立環境科学研究センター

調査研究課題名 及び概要	都市域に生息するトノサマガエルの集団維持機構の解明 大阪府内に生息する準絶滅危惧種トノサマガエルがどのような機構により集団を維持しているのかを明らかにするために、大阪市を中心とする都市域及びその周辺において、トノサマガエルの生息状況を調査し、遺伝学的解析により各集団間の遺伝的交流の状況を把握する。
実施機関名	鳥取県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	水環境における生物多様性の保全と再生に関する研究 県内水環境に生息する希少野生動植物を対象として、保全活動の取組みにつなげていくことを目的として、環境教育プログラムを構築する。 [URL] https://www.pref.tottori.lg.jp/144171.htm
実施機関名	島根県保健環境科学研究所
調査研究課題名 及び概要	アオコ発生・継続に関与する環境因子の解明に関する調査 アオコの発生から発生後まで、宍道湖沿岸部を含めた化学的な水質検査を行うとともに、植物プランクトンの優占種や出現種の変化について調査する。
調査研究課題名 及び概要	宍道湖に発生する植物プランクトンの脂肪酸組成に関する基礎的研究 植物プランクトンの脂肪酸については多くの研究が行われており、珪藻、藍藻では含まれる脂肪酸の組成が大きく異なることが知られている。宍道湖には様々な植物プランクトンが発生することから、本研究では数種類の植物プランクトンについて脂肪酸測定を行う。
実施機関名	岡山県環境保健センター
調査研究課題名 及び概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児島湖のユスリカ幼虫調査 ・ 水生植物の分布状況調査 <p>児島湖の周辺地域では、ユスリカの大量発生が問題となっている。特に、平成18年以降は大量に発生したユスリカが外壁・洗濯物、商店の商品等に付着し、不快害虫として問題となったことから、対策として集落地区に近い場所に誘蛾灯が設置された。また、近年苦情等被害は減少してきているが、住宅地に近接する湖南部はユスリカ幼虫個体数が多く確認されていることから、年4回、湖南部を含む湖内3地点で継続調査を行い、対策検討の一助としている。</p> <p>水生植物の分布状況調査では、本年度は主に児島湖内の沿岸部を船舶で航行し目視等で水生植物の繁茂状況の概況を調査した結果、夏期に湖南部でヒシ群落、児島湖流域下水道放流口付近でセキショウモ群落が確認された。</p> <p>水生植物による水質及び生物相への影響の評価では、予備実験として、用排水路に隔離水界を設置し、水生植物（オオカナダモ）で懸濁物を除去した水を隔離水界に投入し、生物相の変化や透明度の維持の状況を調べている。</p> <p>[URL] (環境保健センター年報) http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/466230_3271403_misc.pdf http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/462947_3229105_misc.pdf</p>

実施機関名	広島県立総合技術研究所保健環境センター
調査研究課題名 及び概要	<p>県内における里海づくり活動の効果的手法の検討</p> <p>干潟保全活動（アサリ被覆網）の効果が認められない干潟において、アサリの稚貝着底調査及び成長・生残試験を行い、干潟環境がアサリの生育に適しているかを評価する。また、県東部での干潟調査（水質・底質・底生生物）及び里海づくり活動の情報収集を行う。</p>
実施機関名	山口県環境保健センター
調査研究課題名 及び概要	<p>里海里湖流域圏が形成する生物生息環境と生態系サービスに関する検討（国環研Ⅱ型共同研究）</p> <p>当県は、漁業生産・環境修復サブグループに属し、アサリ資源の保全/回復、水産増殖の研究を担い、他地環研が取り組む山口・榎野川方式の鉄筋網被覆法を用いたアサリ資源の回復試験に対して、国環研と協力しノウハウや課題解決等の援助を行う。また、一方で鉄筋網被覆法の更なる改善や、他地域で行われているアサリ資源回復手法の当県での適用についても検討を行う。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>被覆網によるアサリ育成手法の応用に関する研究</p> <p>榎野川流域の河口干潟において、里海再生に向けた活動の一環として被覆網の設置によるアサリの保護育成の取り組みが行われている。</p> <p>本調査研究では、被覆網表面に繁茂する藻のアサリ育成への影響を調査し、最適な網の管理法について検討する。</p> <p>また、別の汽水域に新たに造成したアサリ育成場所において、これまでの被覆網によるアサリ育成の実績を応用した実証実験を行い、環境学習の場や母貝団地形成の試みに資する。</p>
実施機関名	香川県環境保健研究センター
調査研究課題名 及び概要	<p>ニッポンバラタナゴ<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>の遺伝子解析 ーニッポンバラタナゴ香川個体の遺伝子モニタリングー</p> <p>ニッポンバラタナゴはコイ科タナゴ亜科に属する日本固有の小型淡水魚で、環境省のレッドデータブックにおいても絶滅危惧IA類(CR)に指定されている。香川県の東讃地域はニッポンバラタナゴの貴重な生息地である。</p> <p>ニッポンバラタナゴの保護には、交雑の恐れのあるタイリクバラタナゴとの正確な判別が不可欠であるが、両亜種は形態に差異が少なく、外見では判別が困難である。そのため、ミトコンドリアDNAのPCR-RFLP分析による遺伝子モニタリングを行っている。</p> <p>[URL]http://www.pref.kagawa.lg.jp/content/etc/subsite/e_center/syoho/sydwvp181029160152.shtml</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>環境DNA分析による水生生物等の生息調査</p> <p>希少野生生物や特定外来生物の環境DNAについて、検出の最適化に向けた検討を行い、生息調査方法としての有用性を検証する。</p>

実施機関名	愛媛県立衛生環境研究所 生物多様性センター
調査研究課題名 及び概要	<p>愛媛県中予地域におけるため池の減水管理がオオキトンボの幼虫の発生に与える影響</p> <p>ため池の水際を主な産卵場所として利用し、冬期に減水したため池の乾出した底質で卵が越冬する可能性を指摘されてきたオオキトンボを対象種とし、ため池の管理方法が幼虫発生に与える影響を調査した。調査の結果、冬期に大きく減水したため池の干出した砂礫から多くの幼虫が発生した。ただし、他の池と同等の成熟個体が飛来し、産卵行動が確認され、冬期に減水していたにも関わらず孵化幼虫が認められないため池も存在した。本成果を用いて保全に対する提言を行った。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>愛媛県におけるカミツキガメ捕獲調査</p> <p>カミツキガメは遺棄単独個体が稀に確認される程度であったが、2017年に過去（2006年前後）と同一地点で複数個体が目撃、捕獲されたことを受けて、今治市、動物園と合同で捕獲調査を実施することとなった。2018年から2020年にかけて24頭が捕獲されたが、各年一定の割合で幼体が捕獲されており、繁殖の可能性が高くなっている。当該地域は外部から隔離された比較的狭い水域で、繁殖初期段階と想定されることから、数年間の捕獲を継続することで成熟個体による産卵を抑制し、根絶に近い密度水準を維持することを今後の到達目標としている。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>セアカゴケグモ_モニタリング調査</p> <p>セアカゴケグモは2014年に初確認されて以降、散発的な発生であったが、2019年8月、本種と疑われる複数のクモを敷地内で確認した旨の連絡があった。現地確認した結果、37頭の雌成体と複数の卵嚢が確認され、翌日の調査では29頭の雌成体と複数の卵嚢が確認された。この段階で県内最大規模の捕獲数であったことから、敷地内に相当数が生息している可能性を踏まえてセンター、市担当課、施設関係者で防除の優先度を含む防除方針を定めて対策を講じている。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>愛媛県における水田域のカエル類の分布</p> <p>愛媛県における水田域のカエル類の分布を明らかにするためにニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエル、トノサマガエル、ヌマガエル、ツチガエル、ニホンアカガエルを対象種に調査を行い、5倍メッシュ（約5×5km方形）単位で集計した。ツチガエルは確認されたメッシュ数が少ないが、全てのメッシュで複数の個体による連続したコーラスが確認されたことから、絶滅のリスクは低いと考えられた。トノサマガエルは2-3頭の断続的なコーラスに留まっており、局所的な絶滅のリスクは他の調査対象種と比較して高いと考えられた。</p>

実施機関名	高知県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>四万十川における清流基準調査</p> <p>平成13年に制定された「高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例」（略称：四万十川条例）にて定められた清流基準に基づいて調査を行っている。この清流基準調査は環境基本法に定められた環境基準に加えて、人間が感じる水質の状態の微妙な変化を表すために新たに清流度、水生生物及び窒素・りんの項目を設定したものである。</p> <p>[URL] 高知県環境共生課のホームページ http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030701/2017100600014.html 高知県衛生環境研究所のホームページ（所報） https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/syohou-link.html（環境研究センター 平成26年度（第31号）調査研究5、平成24年度（第29号）調査研究4等）</p>
実施機関名	福岡県保健環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>共同研究Ⅱ型「生物応答を用いた各種水環境調査方法の比較検討」</p> <p>国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、生物試験方法（WET手法等）に関する情報収集・検討を行う。本県は生物応答試験（藻類）により水質評価を実施する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>福岡県保健環境研究所研究課題「全排水毒性（WET）における生物応答試験の簡易化に関する研究」</p> <p>WETで用いられる生物応答試験のうち藻類生長阻害試験（淡水・海水）の簡易化法を検討し、従来法と試験精度の比較を行う。研究内容は培養方法や測定機器の検討を中心に行う。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>福岡県保健環境研究所研究課題「水環境における魚類調査への環境DNA技術の適用に関する研究」</p> <p>水環境における環境DNA技術を用いた魚類調査と採捕による調査の結果を比較し、魚類調査への環境DNA技術の適用の可能性を探る。また、試料採取やデータ解析等の環境DNA調査における課題の解決に向けた調査及び試験を行う。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>共同研究Ⅱ型「植物の環境ストレス影響評価とモニタリングに関する研究」</p> <p>生物多様性指標を活用するためには、非専門家であっても生物種の同定を正確に行い、指標を適切に使用することがきわめて重要である。そこで、本研究では、指標の活用を推進し、生物多様性保全に資するために、種同定のための適切な県民参加型マニュアルを開発する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>英彦山における森林生態系回復手法に関する研究</p> <p>森林生態系の衰退が生じている英彦山において効率的に植生を回復させる手法を開発するために、実生の発芽を促す土壌かき起こしと、稚樹の生存・成長を阻害する下草の刈り払い操作を行い、その効果を検証する。また、ブナ苗の植栽や種子の撒き出し等の追加試験を行い、その有効性を評価する。</p>

(続き) 福岡県保健環境研究所

<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>共同研究Ⅱ型「森林生態系における生物・環境モニタリング手法の活用」</p> <p>日本各地におけるブナ林など、衰退が懸念される森林生態系の評価と保全対策に資するための生物・環境モニタリング手法を検証・確率させて、標準調査マニュアルを作成整備する。また、これらを活用して、全国の自治体での観測調査ネットワークの展開を推進する。</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>環境DNAを用いた侵略的外来種検出法に関する研究</p> <p>予防的かつ総合的な外来種対策を推進するためには、早期の侵入・定着の把握、定期的なモニタリング調査、また多様な主体による取組が不可欠であるが、特に水生種についてはその捕獲や同定に高い専門的技術が必要であることから課題が多い。そこで、本研究では近年注目されている技術である環境DNAを用いた侵略的外来種の検出法の開発に取り組む。</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>里山生態系の保全・再生に及ぼす野生動物の影響</p> <p>豊かな生物多様性及び国土保全機能を有する里山は、近年、管理放棄等により各地で荒廃し、保全・再生が喫緊の課題となっている。また、最近ではシカやイノシシ等の野生動物の増加が問題となっており、これらの野生動物が里山生態系の再生・保全に及ぼす影響を明らかにする必要がある。そこで、本研究では、里山林を対象に総合的な生態調査を実施し、科学的知見に基づく里山生態系の保全と再生の方向性を示す。</p>
<p>実施機関名</p>	<p>長崎県環境保健研究センター</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>諫早湾干拓調整池及び周辺流入河川における淡水二枚貝類の生息場拡大手法の開発に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨシ進出工内において2通りの波浪軽減策を用いてイケチョウガイの飼育を行い、最も効果が得られた軽減策を調整池での飼育試験に採用し、効果検証する。 ・周辺の用水路においてマシジミが定着する手法を検討し、二枚貝生息場造成に繋げる。 <p>[URL]http://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2018/01/1516775432.pdf</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>ツシマヤマネコ保護増殖事業（環境省委託事業）にかかる糞等のDNA分析</p> <p>ツシマヤマネコ保護増殖事業の一環として、生息状況モニタリング調査（痕跡調査）で採取された糞のDNA分析（種判別、性判別、個体識別）及び、保護個体や死亡個体の筋繊維や血餅を用いた個体識別を行う。</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>アマモ場におけるブルーカーボン貯留実態調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大村湾内のアマモ場に関する情報収集を行い、現存量に関する情報を整理する。 ・現地調査を実施して草体および底泥を採取し、生分解試験を行うことでブルーカーボン貯留量の推定方法を検討する。

実施機関名	熊本県保健環境科学研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>熊本県内河川における水生生物相の変遷</p> <p>平成2年度より県内環境基準点等35地点において水生生物の採取を継続中。水生生物は25種の指標生物（水生生物）に分類し、その個体数を記録するとともに5段階の生物評価を行うことにより、水環境の変化等を観測する。併せて、平成28年熊本地震等の災害の影響や回復状況を把握する。</p> <p>[URL] https://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1942</p>
実施機関名	宮崎県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>県内河川の底生動物による水質特性についての研究</p> <p>県内河川について、底生動物を用いた生物学的調査と理化学的水質調査を行い、河川ごとの水質を総合的に評価する。調査河川は過去に調査を実施した河川とし、過去の調査結果と比較することで、水質の変動も把握する。得られた知見や情報は、本課及び保健所等関係機関に提供し、各地域で行う環境学習に活用していくことを目的とする。</p> <p>[URL] http://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/hukushi/eikanken</p>
実施機関名	福岡市保健環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>福岡市内河川の底生動物を用いた環境評価</p> <p>福岡市内河川の水環境について、水質検査だけでは把握できない環境影響や長期的影響を把握することを目的として、河川底生動物を指標とした環境評価を5河川（多々良川、那珂川、御笠川、樋井川、室見川）で順に実施している。令和2年度は御笠川の淡水域について底生動物の調査を実施し、ASPT値、水生生物による水質判定を用いて環境評価を行った。</p> <p>[URL]（福岡市保健環境研究所報） http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/hokanken/kenkyu/shoholist.html</p>